

全国都市再生まちづくり会議 060805～06 開催



詳細は4～7ページ参照

活動報告

- 7月12日 IRE LRT研究会
- 7月20日 LRV最新事情 勉強会
- 7月29日 鯖江環境フェア
- 7月29日 第2回目の越前市公共交通活性化に関する勉強会
- 8月5・6日 全国都市再生まちづくり会議
- 8月10日 まちづくりフェア企画打合せ会
- 8月18日 例会・理事会

今後の予定

- 8月26日(土)～27日(日)
LRT勉強会(詳細は6ページ)
- 8月28日(月) 駅の文化祭(福鉄美化)アンケート提案・高等学校校長会
- 9月6日(水) 講演(中部地区労/越前市)
- 9月8日(金) ボランティア・NPOの集い
- 9月10日(日) まちづくり交流会
- 9月13日(水) IRE LRT研究会
- 9月15日(金) 例会・理事会

ゆうじんの部屋 書籍紹介

「上川地域におけるデュアル・モード・ビークル導入の可能性に関する検討結果報告」

上川地域デュアル・モード・ビークル導入検討会議

<入手申し込み先> 上川支庁地域政策課地域政策係 難波

〒079-8610 旭川市永山6条19丁目 0166-46-5911

上川支庁は旭川市都心から1時間に1本程度しか列車が走らない宗谷本線の永山駅から、さらに15分ほど歩いた上記住所に数年前移転した。JRの列車が路面軌道を通して支庁まで来てくれればいいのだが、線路を引くほどの需要もないし、道路も空いている。そうしたときに活躍するのがデュアル・モード・ビークルである。

マイクロバスに鉄道の前輪だけを取りつけて、JR線路も物理的に走れるようにしたが、信号等の安全設備にまだ課題がある。信号がいらぬような閑散区間の線路は並行した道路がそもそも渋滞しない。信号設備を積み込むとコストがかかる。いろいろ悩みがあるが、新しい交通機関の可能性を探るためにぜひご一読いただきたい。

美濃部 雄人 Minobe Yujin

060720 LRV勉強会報告(塚谷 康夫)

7月20日に福井電気ビルの一室にて、県総合交通課主催のLRT勉強会がLRV開発(中)の車両メーカー2社の方々を招いて行われました。講師は、バッテリー・トラムの開発に力を注いでいる川崎重工業(株)の奥保正氏と、広島で「グリーンムーバーmax」の納入実績のある近畿車両(株)の榊田保氏です。

奥氏には、部分的に架線のない線区でも充電地に蓄えられた電力で走行できるバッテリー・トラムの開発動向と、その基本仕様・技術的な可能性、特に(現行の軌道法の想定内である)15~30メートルの車両で100%低床車両の実現可能性について、図表を駆使して詳しく説明をしてもらいました。充電地にブレーキで発生する回生電力を充電することによって、今までならば“捨てていた”電力を有効に利用でき、その分架線のない部分の走行距離を伸ばすことができたり、すべて架線のある線区でも通勤ラッシュ時などのピーク電力の値を下げたりできる、など“目からうろこ”の話が聞けました。

榊田氏は開発・納入をした経験から、奥氏とは逆に100%低床車両(特に車軸のない台車を採用しているもの)の短所や運用に当たって注意すべき点について、ジョークを交えながらも厳しい視点で語っていただきました。特に、日本の雪はヨーロッパのものとは異なり粘着性の高いものであるため、低床車両では雪が車両にこびりつきやすく雪国での運用には自信がないと、正直に現状を見つめておられました。

それぞれの講演のあとには質疑応答の時間が設けられましたが、特に開発中のバッテリー・トラムに対しては質問が殺到しました。「車両の値段はいくら?」「最高速度はどれくらいまで上げられるか?」「どのくらいの距離をバッテリーで走行できるか?」「車両同士の連結はできるのか?」など質問はさまざま。講師もたじたじにならなばかりの会場の熱意が感じられました。

対照的な両氏の講演でしたが、奥氏からは夢(理想)を大事にしそれを実現させる熱意を、榊田氏からは現実(特に安全や運用コスト)を直視し安易に見栄えの良さなどに飛びつかない慎重な態度をという、相反するけれどもどちらも技術の向上にとって重要な要素を学ぶことができたように思います。メーカーの不祥事が話題になる昨今ですが、両氏のような「技術者魂」がこれからの日本に“DNA”として受け継がれていってほしいと願わざるを得ません。

越前市公共交通活性化協議会 ROBA 勉強会について 060729 高橋 八州太郎

今回も岸本理事のお宅をお借りして第2回の勉強会を開催した。参加者は内田、岸本、清水、塚谷、高橋の5人でした。前回の現況を元に、今回は越前市から提案をもとにいろいろな改善案を提案していくこととした。

市内循環ルートは1便あたり4名と少ないことから、余分なルートは廻さず単純なルートにしたて本数を多くした方がいいのでは？郊外部は、集落単位でフリー乗降ゾーンの提案、市内のSCでのフリー乗降ゾーンの設定、部分的に必要なない箇所の短絡ルートの提案、郊外部の違うルートが交わるバス停は、時刻的にずらして『ハブ』的機能を持たしてはどうか？等々の提案を8月3日の協議会で発表、フリー乗降については、老人会からも、国道工事事務所の方も賛意を示されました。ただ、交通渋滞をどう解消するかが鍵となる。SCでは敷地内で対応することが原則である（事業主の協力が不可欠）。前回は今回も話題に出たのが福祉バスとコミュニティバスの違いを老人会など、自治会自体も把握しておらず、今年の4月より週1回から2回に増えたことがまだ浸透されていなく、行政に対し、もっと広報に力を入れて欲しいとの強い要望が出された。

また、今回改正された、バスルート案の中で評価が高かったのが、旧武生市街に入るバスは、殆んどが図書館、文化会館を経由していくように計画されていたことだ。旧今立地区では、防犯の観点から、小学生の利用率が高い。これは山間部ならではのことと理解できた。

越前市では、これらの意見を踏まえ、ルートの再検討し、10月を目処に試行運転を行うこととなった。また、今回の会議でROBA作成のバスマップについて説明する機会をいただきましたので大いに宣伝させていただきました。担当者からは、今後このようなマップを作成することも考えられますのでそのときはよろしくお願ひしますとの言葉をいただきました。

今回は、試行運行を終えたのちの12月頃の開催となる予定である。

「鯖江環境フェア」に参加して 20060729

鳥居

鯖江環境フェアでROBAのパネル展示を見せていただきました。田原町から西鯖江まで福鉄を利用して行きましたが、先日の例会でも話題になった「福鉄の駅美化運動」については、やはり重点駅（モデル駅）を設定して取り組んだ方がいいと思いました。特に、始発駅の田原町については、レトロな雰囲気が残っているのはいいのですが、お世辞にもきれいで清潔感のある駅とは言えない状態です。

まず手始めに、福鉄のすべての駅を原則禁煙にできないか、交渉してみることはできないでしょうか。駅のホームでタバコを吸う人が多いと、灰が飛び散ることでどうしても駅が汚れやすくなります。タバコだけが原因ではないと思いますが、帰路途中下車した水落駅待合室の壁や椅子も結構汚れていました。禁煙を推進する団体、例えば越前禁煙友愛会（下記URL参照）と連絡を取って共同で申し入れするのの一つの方法だと思います。

http://www.city.echizen.lg.jp/office/130/030/index_5/dantai/dantai_45.jsp



平成 18 年度 全国都市再生まちづくり会議に参加して 060805～06

高橋 八州太郎

日時：平成 18 年 8 月 5 日から 6 日

場所：東京都中央区立常盤小学校

部門：交通関係部門（RACDA 岡山、㈱ライトレール、まちかど研究室、ROBA）

ROBA 参加者：林理事、玉井理事、青木、佐々木、高橋

8 月 5 日（土）

午前 10 時 30 分 集合 各教室へ行き設営開始。

「交通関係部門」は、岡会長（RACDA 岡山）の座長のもと、ROBA（福井）、まちかど研究室（松江）、RACDA 岡山（岡山）、㈱ライトレール（東京）からの出展。



入口（体育館の出入口）



校門のまえにこのような「旗」

時間帯としては、午前中は各ブースの設営、午後 1 時より全体集会在体育館で会議全体のスケジュール説明、挨拶などが行われた。今年は、各セッションごとに時間を分けて行い、それも自分達のブース（各教室）ごとに開催する方式となった。設営では、東京会員である佐々木さん、青木さん、それに玉井さん、私が林ひさんの指示の元、パネル 2 枚を有効に使い、展示物を作成。特に、日本地図を使ってバスマップを創っているまちの紹介は、「ひも」を使って立体的な表現で少し工夫した。食事の後、午後 1 時から、各ブースを廻り、どんなことをやっているのかみて回った。「まちづくり」だけあって、商店街との連携や、町の保存運動、古建築保存を核にしたまちづくりの運動、大学が地元の商店街と連携してまちづくりをする例など、興味深い展示をするところが多かった。個人的には、再開発関係をやっている「景観・まちなみ」部門へ行き、昔の仲間（再開発関係）と談笑する機会を得、福井でのまちづくりの現況などを伝え、また、都市計画と交通計画（道路計画ではない）の融合などについて種々懇談ができたことは有効な時間を過ごすことができた。

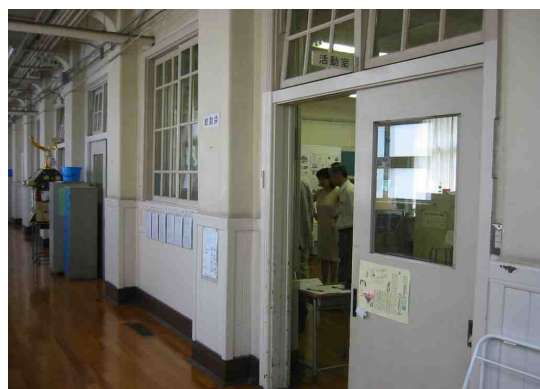
午後 1 時過ぎより、いろいろな方が我らのブース（教室）に、我らのパネル前に来てくれ林理事、玉井理事、青木さん、佐々木さんもがそれなりに説明。

利用者からみた便利なバスマップがない（事業者ごとにはあるが、全体としてまとまっていない現状）全てのバス会社の路線を網羅、駅との接続も視野に入れたマップづくり当初は 4 都市から起きたバスマップ作成が十数都市にまでその波紋が広がってきてい

る事実を紹介 人が集まることから「まちづくり」への胎動が始まる・・・てなことを中心に訪れる方々に説明をしてきた。一方、まちかど研究室のアイデアは、視覚障害者への手助けとなると確信した。



私たちの会場案内



交通関係の交流会会場（3階）



RACDA 岡山の展示



まちかど研究室（松江）の展示



ROBA の説明



説明する林理事

RACDA 岡山は岡さん節で、来る人、来る人に LRT の実現を熱っぽくかたり、(株)ライトレールの阿部氏は、物静かな語り口に関わらず、力強く LRT についての説明、特に富山市で開業された「富山 LTRT」について、詳細にかつ、ディテールもきちんと説明ををしていた。松江の田中氏は、今、おこなっている「水木しげるロード」で行っている視

覚障害者のための音声案内システムを、実際にラジオの音声で聞いてもらって巧みにねちっこく説明、機器の宣伝をしておりました。(この発信器は計画技術研究所が開発してきたとのこと)。地ビールならぬ「地ラジオ」かなと言葉あそびに妙に納得した2人でした。

ROBAは林ひさんはマップ作りをすることが、つくるだけでなく、それを使ってまち歩きができ、ひいてはまちづくりに繋がっていくといったことを切り口に説明を進めた。

午後3時30分からこの教室で「交通部門」での報告会・セッションが行われた。RACDA岡山、(株)ライトレール・阿部さん、まちかど研究室・田中さん、そしてROBA・林さんの順でそれぞれ10~15分程度でそれぞれの活動について説明、セッションには私たち関係者も含め20余名の参加であった。

(株)ライトレールの阿部氏からのLRTに関する説明を除けば、さながら「ミニ・バスマップサミット」のような感じがしました。RACDA岡山の岡会長が口癖のように言っていることのひとつに「LRTを成功させるためには、バスなどの公共交通網がきちんとしなければ機能しない(主旨)」との言葉の重み、そしてROBAがとりくんでいることの重要性を改めて実感したセッションでもあった。



交流会風景(座長のRACDA岡山 岡会長)

夕方は、懇親会が行われ、それぞれ楽しく過ごしたそうである。

(小生は別な打合せがあったので、そちらへ向かいました)

8月6日(日)

午前10時30分より各教室において、ミニセッションが随時行われました。この間、林理事はRACDA斉藤副会長と松江の田中氏と共に『バスマップ』の販路拡大を求めて、『書泉グランデ』へ向かいました。

さて、最後の表彰式ですが、交通関連部門では、RACDAが選ばれました。



全国都市再生まちづくり会議に参加して

神田駅に到着してから会場まで、迷いながら予定より少し遅れて会場につきました。午前中は準備して、午後1時から開会式があり各ブースがスタートしました。私の報告では、当日、他の団体の方と交流して気がついたことを書きます。

まちづくりに関して、越前市のことで話ができました。武生の駅前には、かにを食べさせてくれる店がない事にがっかりした。また、市役所移転の話に対する問題点。そして、武生にはまちづくりの市民団体はあるのか？聞かれました。私では知識不足の感もあり高橋さんに応援頼みました。たしかに市の中心部に、かにを食べさせてくれる店は必要だと感じました。福井駅前には確かにありましたね？他、関東学院大学の先生が、若狭町の熊川宿の調査に行く計画があると話されていました。

次に、私たちの交通関係のブースで感じたことです。5日の交通関係プロジェクトでの話できがたったことを書きます。富山ライトレールの成功の状況の話を聞きましたが、成功の鍵はやはり待たずに乗れる間隔での運転にあると感じました。現在富山ライトレールは15分間隔での運転であるが、それではだめで最低でも10分間隔での運転が必要だと話されていました。

また電車に接続するバスも、やはり10分間隔が必要であると。しかし福井での現状を見ると、電車は20から30分間隔であるし、バスでも10分間隔での路線は、ほとんどない状況ではかなりむずかしく感じました。また、当日交流した県外の人で「あおぞらくん」の話ができました。でも、「あおぞらくん」は現在1時間間隔での運転で、次回福井に来たときには乗る気にならないと手厳しい意見いただきました。理由はえちぜん鉄道との接続も半分はない。一方向だけの運転（現在は双方向運行）であるからと話していました。今回参加して感じたことは公共交通の運転間隔の問題でした。乗らないから本数を減らすのではなく、逆に本数を増やして乗りやすい環境にもっていく転換が必要だと思いました。県外、特に都会から福井に来た人には公共交通の運転間隔には耐えられないのでは？

報告 / 玉井

脇本です。

期待所要時間という考え方があります。実際に目的地までに行くのにかかる時間は、乗り物に乗っている時間だけでなくそれに待ち時間を加える必要があり、この合計時間が本当の所要時間になるというものです。（京大の中川大助教授らが提唱）確かに、人が拘束される時間は、思いつくまま行って、どうなるかということ。移動距離が短いほど、待てなくなりますね。

この事情から、広島など全国の路面電車では、3～5分間隔で運行されています。福鉄は、20分間隔ですから、路面に乗り入れていても、路面電車とはいえませんね。やはり、えち鉄の路面乗り入れ（混合運行）での便数アップが期待されます。さらに、バスも乗り入れできれば、さらに便数が増えます。名古屋では、バスが中央走行しており、スピードアップと定時性確保に効果を上げています。

第2回 LRT 部会勉強会の開催ご案内

『コンパクトシティを目標とする LRT システム導入 の地理的要因～福井スタディ～』

講師として、都市地理の観点から、北陸地域の LRT の研究をされている、若き研究者です。(ROBA のイベントによく来ています / RACDA 高岡の会員でもあります)

主な構成は富山市を中心に、北陸4都市の都市構造と交通に関する比較をテーマとしてもらい、各都市同じ分析の結果についても発表してもらい、特に福井の資料を別に追加してもらおうと考えています。それをもとに、福井についてディスカッションをしてもらおうと思っております。

夜学

日時：平成18年8月26日(土) 18:00～20:00

外部講師：松原光也氏(関西大学大学院)

場所：手寄地区市街地再開発組合 会議室

(福井市手寄1-20-1手寄久我ビル3F)

連絡先：高橋 携帯090-1037-0761

このあと、市内で懇親会を予定してます。(希望者)

(予算は3,000円以内で)

勉強会

日時：平成18年8月27日(日) 9:30～12:00

場所：福井県民活動センター 会議室

連絡先：高橋 携帯090-1037-0761

作/漆崎 耕次

編集後記・・・編集委員より一言

林(変集長)

「お盆も休まず仕事仕事仕事・・・あつーい!!!」

塚谷(副編集長)

「バス停付近のデッドスペースを物色中」

内田(発行責任者)

「サイクルトレイン動き出したね!」

」

事務局 特定非営利活動法人

ふくい路面電車とまちづくりの会(ROBA)

910-8031

福井市種池1丁目1905-3

TEL: 0776-25-7968

e-mail : roba@mbh.nifty.com

URL : <http://roba.cocolog-nifty.com/roba/home/>